

平成17年度 都市景観大賞
「美しいまちなみ賞」
受賞地区概要

平成17年度 都市景観大賞「美しいまちなみ賞」受賞地区

「美しいまちなみ大賞」

地 区 名	応 募 者
明治百年通り	・フラワーボランティアの会 ・秋田県小坂町
八尾地区	・有限責任中間法人八匠 ・富山市
街中がせせらぎ事業地区	・特定非営利活動法人グラウンドワーク三島 ・静岡県三島市 ・三島商工会議所
倉吉市打吹地区	・打吹地区歩行ネットワークを考える会 ・鳥取県倉吉市

「美しいまちなみ優秀賞」

地 区 名	応 募 者
成田市上町地区	・上町街づくり協議会 ・千葉県成田市
宇津ノ谷地区	・宇津ノ谷地区美しいまちづくり協議会 ・静岡市
大洲市肱南地区	・大洲市町並みイベント実行委員会 ・愛媛県大洲市

「美しいまちなみ特別賞」

地 区 名	応 募 者
さいたま市北部拠点宮原地区	・さいたま市北部拠点宮原地区まちづくり協議会 ・さいたま市 ・独立行政法人都市再生機構 ・スバル興産株式会社

【審査委員長 中村良夫 東京工業大学名誉教授 総評】

大賞を受賞した4件はいずれも町並みデザインの歴史のなかで新境地をしめす力作であった。とくに目立ったのは市民組織の力とそのユニークな活動である。

郷愁をさそう「おわら風の盆」で知られた八尾地区は、町並みの美しさだけでなく井田川に面した斜面を仕切る石垣の美しい町である。地元の大工、工務店、建築事務所などで構成する有限責任中間法人八匠という専門家集団が町並みの保存と創造に果たす役割は今後の街づくりにおおきなヒントになるだろう。

倉吉は第三セクターの株式会社「赤瓦」による伝建地区内の空き店舗を活用した商業の活性化がきわだっている。また火災跡地を利用した街づくり防災拠点「くら用心」のアイデアもすばらしい。

湧水の源兵衛川で知られた三島市は、清流のネットワーク化を中心にした本格的町並みづくりにのりだした。これを推進する21にのぼる市民団体からなる特定非営利活動法人グラウンドワーク三島の働きは力強い。

小坂鉦山の旧鉦山事務所や康楽館などの文化財をちりばめた小坂町の「明治百年通り」は、アカシア並木や花壇あるいは新しい建築やストリートファニチュアなどによって、景観を大事に育ててきた市民の見識と品格を感じさせる稀な例である。

全体として、やはり歴史的町並みが多く、新しい都市ではわずかにさいたま市の北部拠点宮原地区が目立っただけであった。今後の問題であろう。

「美しいまちなみ大賞」受賞地区の概要

明治百年通り地区

所在地：秋田県鹿角郡小坂町

地区面積：約 7.1ha

応募者：フラワーボランティアの会

小坂町

地区概要：秋田県小坂町は、小坂鉱山の開発によって、明治から昭和にかけて栄えた町である。小坂町の中心市街地に位置する明治百年通り地区には、国指定重要文化財である『康楽館』や『旧小坂鉱山事務所』、また国登録有形文化財である『小坂鉱山病院記念棟』や『天使館』などの歴史的建造物が建ち並び、アカシア並木や煉瓦歩道とともに、明治のハイカラなイメージで統一された景観が形成されている。町内外の有志や企業ボランティアから構成する「フラワーボランティアの会」によって、花壇の増設や看板設置、花の植栽、管理など、通りの美化活動が実施されている。

講評：明治期に忽然と出現した小坂鉱山は、生産と生活の機能を充実させた近代的都市であった。＜明治百年通り＞に点在する *旧小坂鉱山事務所 *小坂鉱山病院記念棟 *天使館（幼児教育施設）*康楽館（芝居小屋）は、非常に質の高い建築である。みごとに修復再生され、現代生活の中で、展示空間・レストラン・集会場・芝居小屋として生き生きと使われている。通り周辺に点在する多くの近代化遺産も同様に現代に生きている。「活用してこそ文化財」という視点のもとに町民が積極的に取り組んだ事業の成果である。アカシア並木が作る緑陰、フラワーボランティアの会が丹精して育てるクリスマスローズ花壇が、優れた建築遺産をつなぎ、通り全体にわたり大変上品な景観が創出されている。一方、町内で新しく造られている公共施設—学校・保育園・診療所・老人ホーム・トイレなども大変健全な方向性を持っている。ていねいにデザインされた街で暮らしてきた歴史を持つ人々の中に、まちづくりの基本的精神が自然に育まれたのではないだろうか。



歴史的建造物が建ち並び、アカシア並木や煉瓦歩道など、明治のハイカラなイメージで統一されている。



現地現存では日本最古の芝居小屋の康楽館。明治 43 年竣工で、平成 14 年、国指定重要文化財指定。



鉱山従業員子弟の幼児教育機関であった天使館。昭和 7 年竣工で、平成 15 年国登録文化財指定。



フラワーボランティアの会による花苗の植え付け作業の状況。

八尾地区

所在地：富山県富山市

地区面積：約 100.0ha

応募者：有限責任中間法人八匠
富山市

地区概要：八尾地区は、「おわら風の盆」で有名な旧八尾町の中心市街地に位置する。地区の中心を通る諏訪町本通りが昭和 61 年に「日本の道 100 選」に選定されたことを機に、行政・民間組織・地区住民が一体となって、地区固有の町並み再生に取り組まれてきた。行政による公共空間の石張舗装、無電柱化、石垣景観の保全のほか、この地域の大工棟梁、工務店、設計事務所で組織された「有限責任中間法人八匠」による、伝統工法を用いた家づくりが進められてきた。また、地域住民が率先して軒先に花や緑を提供するなど、町並みの美化に協力している。「曳山祭り」、「おわら風の盆」をはじめ、町並みを活用した各種イベントの実施により、観光客も増加している。

講 評：応募地区内には自然石を活用した井田川沿いの石積み護岸や急傾斜地の石垣があり、まずこれらが造り出す美しい景観に圧倒される。さらに、応募者に加わっている、地元の大工の棟梁、工務店、建築設計事務所等による組織、有限責任中間法人八匠関わった数多くの伝統的な八尾型の住宅や蔵があり、また地区の中心である諏訪町本通以外にも評価できる景観形成に関わる取り組みがここには数多くある。この点をまず高く評価したい。八尾は諏訪町本通沿いだけではないということである。また、有限責任中間法人八匠の取り組みは、地元の人達と協調して、地区計画や条例などの制度的な裏づけに頼らず、日々の生活の中から生まれていると思われる美しい街並みを造っていかうという意識に強く支えられている。さらに、有限責任中間法人八匠は八尾型住宅づくりの技術を伝承していくために後継者の育成にも取り組んでいる。このような組織があることが魅力的な街並みを造っていく上で如何に重要であるかを教えてくれている。大臣賞にふさわしい地区である。



諏訪町本通りの沿線を望む。石畳舗装等、街路整備がなされ、沿道建築物のファサードなどが改築済み。



町並みの要所々々に、自然石を基調としたポケットパークが整備され、憩いの場となっている。



「おわら風の盆」の町流しでは、石畳舗装が情緒ある雰囲気醸し出している。



禅寺橋より今町周辺を望む。石垣景観保全で整備され「坂の町八尾」を象徴している。

街中がせせらぎ事業地区

所在地：静岡県三島市

地区面積：約 128ha

応募者：特定非営利活動法人グラウンドワーク三島
三島市
三島商工会議所

地区概要：街中がせせらぎ事業地区は、三島市の中心市街地に位置し、街中には源兵衛川をはじめ、いずれも湧水を水源とする河川が 5 本流れている。昭和 40 年代に枯渇した河川ですが、市民・企業・行政が協働で綺麗な水の流れを取り戻し、街中に水と緑と文化のネットワークを形成し、歩行者が回遊して楽しめる快適な市街地へと変貌を遂げている。この取組みの中心的役割を果たしているのが、まちづくりや環境に関わる 21 の市民団体から構成される「特定非営利活動法人グラウンドワーク三島」であり、市民や企業とのコミュニケーション、行政との調整をしながら、身近な環境改善・景観形成活動を展開し、具体的な成果をあげている。

講 評：街の貴重な資源である「せせらぎ（農業用水や河川など）」を軸に、駅前広場から街中まで、歴史的な資産・自然資源を活用した回遊性のある街づくりが展開されている。また、まちづくりや環境に関わる 21 の市民団体を構成メンバーとする「特定非営利活動法人グラウンドワーク三島」を中心にして、数多くの市民が様々な活動に積極的に参加し、市民の力で「水」を活かした街づくりに取り組んでいる状況は特筆に価するといえよう。「水」に着目した様々な事業の連携と市民の積極的な協力で「街の印象」が着実に変わりつつある。



伊豆箱根鉄道三島田町駅は溶岩の隙間から水が流れる仕掛けなどにより、潤いの場所となっている。管理は伊豆箱根鉄道が行っている。



簡易水道の水源池を市が購入し、暗渠であった四ノ宮川を上下の水路とし、上部には湧水の綺麗な水を流した。近隣住民が清掃活動を行っている。



湧水の流れる源兵衛川。親水遊歩道を設置。



NPO 法人グラウンドワーク三島に委託し整備した「ほたるの里」。管理は住民が行う。

倉吉市打吹地区

所在地：鳥取県倉吉市

地区面積：約 150ha

応募者：打吹地区歩行ネットワークを考える会
倉吉市

地区概要：倉吉市の中心市街地に位置する打吹地区は、かつて栄えた明治・大正時代の商家のまちなみを残し、その一部が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。こうした歴史的まちなみ環境の保全・修復とともに、第三セクター「赤瓦」による歴史的建物の利活用等が進められ、また道路にはカラー舗装、案内板、ストリートファニチャー等を設置するなど、観光客に楽しんでもらえる空間づくりが実施され、観光客も増加している。地元の各種団体等が集まって組織された「打吹地区歩行ネットワークを考える会」を中心に、来訪者がまちを歩いて楽しめるようカラー舗装化、案内板の設置、ストリートファニチャーの整備等が推進されている。

講評：伯耆の国の国府として登場した倉吉は、天神川と小鴨川にかこまれ、中世の山城の築かれた打吹山を背にした静かな町である。山河のたたずまいに古代の風格がある。小鴨川から引かれたきれいな玉川が、古い町屋と蔵屋敷に寄り添うようにながれている。こうしたすぐれた立地をいかした明治から昭和初期の町なみは伝建地区として良く修復保存されているが、それを活用したさまざまな都市活性化の工夫と市民参加の熱意は賞賛にあたいする。第三セクターの株式会社『赤瓦』による古民家、土蔵8棟を活用した物産販売、「あきない中心倉」による福の神34体を設置した廻遊性の向上、火災発生を機会に市が市民の寄付金もえて発足した「くら用心」は防災と街づくりの拠点である。空き店舗を活用した新たな店舗展開、などの総合的な施策が八橋往来まで拡張しつつある。丹下健三氏の初期の作品である市庁舎のエントランスホールからながめた向山は一幅の屏風絵のようだ。この建築もまた、戦後のモダニズムの記念碑としてこの町の歴史景観に位置づけてほしいとおもう。



主屋は連続する3棟の建物からなっていて、西側の棟は明治初期で、東側の棟は大正初期の建築物である。現在も醤油の醸造、販売所として使用。



明治中期頃の建立と推定される江戸期の形式から本二階建てへと変化していく、当時の町屋建築である。現在酒販店として使用されており、隣の土蔵は「赤瓦三号館」として利用される。



大正初期に米屋として建築された建物。倉吉の町屋に共通する平入り瓦葺き二階建てで、外観は質素な造りだが内部は素晴らしい。特に中の間に設けられた渡り廊下の空間構成に贅沢さを感じる。



往時の面影をとりもどした玉川沿いの風景。

「美しいまちなみ優秀賞」受賞地区の概要

成田市上町地区

所在地：千葉県成田市
地区面積：約 300m
応募者：上町街づくり協議会
成田市

地区概要：

成田市上町地区は、成田山新勝寺の表参道の間差点に位置し、門前町ならではの歴史的風情、独特な街並み景観を形成している。参道沿いの商店主、地区住民等で組織された「上町街づくり協議会」が主導して、行政との協働により、沿道建物の2mセットバックによる歩行空間の拡大・くつろぎ空間の整備、電線類地中化事業等を進めるとともに、沿道建物のファサードに白壁・瓦・和風看板等を配し、統一的な景観を形成している。また、市民協働による「成田祇園祭」や「太鼓祭」など多彩なイベント活動により、町並みに賑わいが再生しつつある。

講 評：

当該地区は、J・R・京成成田駅から成田山新勝寺に通じる表参道の間差点に位置し、拡張された道路と、電線類の地中化により、快適な空間と青空が広がっている。そこには、白壁と瓦、和風看板に統一した商店が連なり、門前町の歴史的風情と賑わいを感じさせる。この地区の景観形成の取組みは、地元の商店街の店主が中心となって、「上町街づくり協議会」を発足させ、市の助成も得ながら自らの商店をセットバックするとともに、ファサードを白壁、和風看板に改築したことからはじまる。これが先駆的な取組みとなり、周囲の商店も次々とセットバックやファサードの改築といった景観形成事業に着手し、現在では、上町地区の過半数が完了しているところである。また、市は、商店の改築の進捗にあわせて、関係機関の協力により電線地中化工事を実施している。こうした、地元商店と市が一体となった景観形成に対する根強い取組みは、高く評価できる。これらの事業により環境整備が進んだ沿道には、干支の置石や低めの街灯が設置され、より風情を増している。現在も景観形成事業は進捗中であり、今後のさらなる良好な景観形成に期待したい。



沿道建物のセットバックが完了した区間では、電線類の地中化やストリートファニチャーの設置等により、快適な歩行空間と青空が広がる。



電線類の地中化に伴い街路灯を低くして、より風情を増した。茜色の空と目に優しい装飾街灯が道の広がりやマッチしてゆったりとした空間を演出する。

宇津ノ谷地区

所在地：静岡県静岡市
地区面積：約 7.2ha
応募者：宇津ノ谷地区美しいまちづくり協議会
静岡市

地区概要：

宇津ノ谷地区は、静岡市の西端、旧東海道の丸子宿と岡部宿の間に位置する古くからの宿場であり、静かな山あいにある40戸ほどの集落である。地域住民で構成する「宇津ノ谷地区美しいまちづくり協議会」と地元の建築家、行政等の協働により、古い街道の面影・歴史的景観を残すように、統一した材質、色調による建築物の修景を図り、調和のとれたまちなみ景観の形成に取り組まれている。また、朝市での地元産品の販売、七夕飾り、灯籠飾り、観光ガイドなど、地元住民や協議会による多彩な活動によって、旧東海道を歩くハイカーなどの来訪者も増加しつつある。

講 評：

同地区を訪れたのは今回が初めてであったが、静岡駅から路線バスで容易に訪問できる地理条件で、これほど豊かな自然に恵まれ、また歴史的な建築手法が継承される集落が残されているという事実には驚かされた。ことに、交通量の多い国道から集落に至るアプローチは、ほとんどの場合、国道の反対側から緑濃い山に向かって陸橋を渡ることとなるため、あたかも日常生活を後にして、神秘的な場所へと足を踏み入れていくような期待感をそそる演出となっている。集落内に入ると、予想を裏切られることなく、そこには地域住民の努力と連携を感じさせる美しい家並みがあった。同地区の個性は、美しい自然環境という背景によって初めて成り立つものなので、今後も街並みの保存・美化と環境保全を同時に進めていって欲しい。地域内には高齢者の姿が目だったが、この景観が次の世代に継承され、守られていくことを希望する。



街路整備がなされた道と、沿道建築物（5件中4件が修景済み）のファサード。



集落の祭りに併せて、協議会は各家の前に手作りの灯籠を吊り下げた。

大洲市肱南地区

所在地 : 愛媛県大洲市
地区面積 : 約 95.5ha
応募者 : 大洲市町並みイベント実行委員会
大洲市

地区概要 :

肱南地区は、大洲市の中心市街地に位置し、伝統的な文化や個性を色濃く残している。「おはなはん」の街としても有名である。近年、大洲城天守が完全木造で復元され、また大洲城址の足元を流れる肱川の堤防上で修景護岸事業を実施し、大洲城天守等歴史的建築物と城壁風修景護岸との調和した美しい河川景観を創出している。また「おはなはん通り及び周辺地区」の町並み景観の保全も進められている。まちづくりの第三セクターである「株式会社おおず街なか再生館」、商工会議所、観光協会、地元建築士会、まちづくり活動グループの各代表で構成される「大洲市町並みイベント実行委員会」によるイベント事業が展開され多くの観光客で賑わっている。

講 評 :

大洲の歴史的街区は肱川の清流の南に沿って展開、江戸時代の城下町に基礎を置きながらも明治から大正・昭和初期にかけて木蟬や製糸や舟運によって隆盛を極めた当時の街の雰囲気を、よく残している。西端には大洲城の天守閣が当時の木構造によって完全復元され、東の端は明治の貿易商が構想 10 年・工期 4 年をかけて建設したという臥龍山荘が小高い丘の麓に佇んでいる。その間約 840 メートルの護岸を石積みと木堀によって城壁風に修景したことには賛否両論あろうが、町並み景観への意識を喚起した点では意味があった。その護岸の背後、特にその東半分の臥龍山荘から続く町並みが、今、重点的に保存され、また活用されつつある。総合的な景観形成にはまだ時間がかかるが、旧銀行を保全修復した「おおず赤煉瓦館」や昭和初期の町の様子を再現した「ボコペン横丁」などには、新しい町衆の意気込みを感じさせるものがある。課題は多いが、今後の動きに注目したい。



明治～大正～昭和の初期に木蟬、製糸、舟運に沸いた大洲の町を代表する商業エリアがこの辺りだった。2 階の窓に当時の特徴を残す古民家が見受けられる。



現在は春、夏、秋にかけては、毎週 1 回（日曜日）の開催となった官民共同事業。奥手の倉庫も改修され、常設展示館「思ひ出倉庫」として活用されている。

「美しいまちなみ特別賞」受賞地区の概要

さいたま市北部拠点宮原地区

所在地 : 埼玉県さいたま市
地区面積 : 約 31.7ha
応募者 : さいたま市北部拠点宮原地区まちづくり協議会
さいたま市
独立行政法人都市再生機構
スバル興産株式会社

地区概要 :

さいたま市北部拠点宮原地区は、大規模工場の移転跡地を開発したもので、さいたま市の副都心形成の先導的役割を担う地区として位置づけられ、職・住・遊・学などの高次都市機能を備えたニュータウンである。良好な都市景観の形成を目的に、事業当初の段階から地元住民などを主体とした「まちづくり協議会」が設置され、行政・市民・企業等による当地区独自のデザイン調整システムによって、質の高い都市景観を有したまちづくりが進められてきている。また、市民協働によるフリーマーケットや、NPO などによる多彩なイベントなどが開催され、老若男女が集い賑わいある街が形成されている。

講 評 :

工場移転跡地の区画整理という比較的進めやすい事業であり、計画を実現しやすい事案であった。土地利用は明快で新都心に続く商業、業務と住宅を含む都市機能を持った地区として整備された。スーパーブロックの格子状道路が明快さをさらに強調するが、公園緑地の配置とデザインが街のイメージを否个性的で大胆なものにすることから救っている。官民境界などの敷地の境界に物理的構造物を作らないというしつらえが徹底して、ゆとりあるやわらかい空間構成が実現した。これが街全体を広々とした印象を与える景観とすることに成功し、新都市としての新たな拠点づくりの意図が伝わってくる。物理的な境界のあいまいさが、管理業務の不徹底につながるものの心配がある。これは本地区と周辺との機能的、空間的な連続性となじみをどう展開するかに共通する今後の大きな課題であろう。



大規模工場の全面移転に伴い、職・住・学・遊などの高次都市機能を兼ね備えた新しいまちづくりが進められた。



きたまちしましま公園〔西側〕全景。富士山と筑波山をつなぐ軸線上に当地区が位置することから 2 種類の芝生や石張りによるしましまをランドスケープとしてダイナミックにデザインした。